



## 松村公明教授の 「わたしの宿場町」

中心市街地は、日光街道の宿場町「幸手宿」を基盤として今に続いています。起点の江戸・日本橋から日光街道を辿ると、千住宿→草加宿→越ヶ谷宿(越谷)→船岡宿(春日部)→杉戸宿を経て、六番目の宿場町が幸手でした。中心市街地の主軸となる日光街道沿線は、南から右馬之助町、久喜町、仲町、荒宿の4か町から構成され、街道に面する敷地施設の形状は、間口幅に対して奥行きのある「短冊状地割」を呈しています(図1)。街道から敷地奥の食庫に商品を運搬するためのトロッコ。通称「横丁鉄道」が活躍してきたのも、街道筋特有の地割のためです。商店街の実種構成は近年変貌してきましたが、注意深く観察すると、幸手は農村地域における物資の集散地・商工業の中心地として繁栄した昭和期の姿が偲ばれます。この点では、生活雑貨や食料品を取り扱う大都市の近隣商店街とは趣を異にしているのです。東武鉄道日光線の開業は1929年(昭和4年)です。旧宿場町の南西はずれに設置された車両庫も(図2)、昭和期を通じてこの町の玄関口として重要な役割を果たしてきました。首都圏はその名のとおり東京への通勤圏として位置づけられ、近郊都市=ベッドタウンとして一様に見られがちですが、都市の起源や形成過程には多様性があることを、身近なまち歩きを通して発見することができるでしょう。

最後に、幸手市の人口は53,666で、埼玉県内40市の中でも最小となっていることを付け加えておきましょう(2008年10月1日の推計人口による)。東京50km圏に位置しながらも、都市化・中高層化の荒波を免れて、昭和の面影を今に残すさやかなまちがここにあります。表通りの街道筋から横丁や裏町へと気の向くままに足を運んでみられてはいかがでしょうか。



小田井商店



図1 日光街道沿線のまちな土地図(2001年) 基図:幸手市発行2,500分の1『幸手市地図図12』(2001年測量)

**ぶらぶ幸手** 桂川野銀行、立教大学観光学部連携事業「幸手・幸手交流フットパスプロジェクト」問い合わせ 立教大学リサーチニアアイブセンター(新宿)  
TEL:04-471-6790 FAX:04-471-6677

制作:桂川野銀行、立教大学観光学部 協力:幸手市商工課  
連絡:中村正人課長事務所 デザイン:望月昭伸+仲 舟穂(049,501) イラスト:あやぼ

幸

「桂川野銀行+  
立教大学観光学部  
『幸手まち歩きプロジェクト』」



## 美の街、食の街“SATTE” 美味しい、安い、キレイ

まち歩き  
**MAP**  
2



江戸時代の地割が今に残る日光街道の町並には、昭和の面影を残すレトロな雰囲気が漂ります。そんな昔ながらの商店街の中には、化粧品店やブティックなど、実はおしゃれなお店がいっぱいあるんです。しかも、焼かりんとうや塙あんびん、塙がま、桜アイスなど、都会ではお目にかかるないヨーカルなグルメもたくさん。優しくて人懐っこい店員さんとの交流から、幸手の新たな一面を見えるかも。おいしいもの巡りに、裏道散策、楽しみ方は無限大。歩けば歩くほど、幸手の魅力に出会えます。地図にはそれぞれの間に合わせたキャラクターを箇内役として用意しました。彼らのルートを参考にあなただけのお気に入りを見つけに行きましょう。



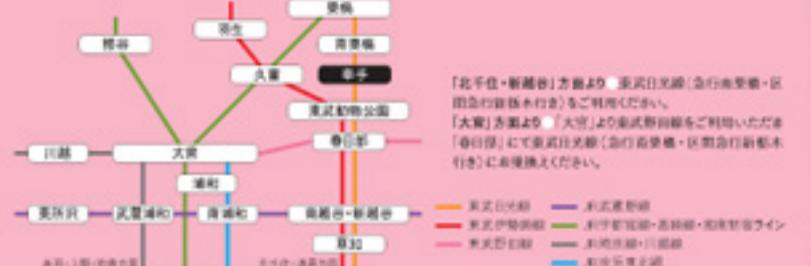
桜井洋子  
33歳、  
広告代理店勤務

### 埼玉 地域交流フットパスプロジェクト

このプロジェクトは、桂川野銀行の支援を受けて立教大学観光学部の学生が埼玉県の町を調査し、歩道化にあたる人々が昭和文化を溝じて交流した話を説くことができる紙の新しい楽しみ方を創造する活動です。埼玉県の川越、東武鉄道、JR武蔵野線の沿線から比較的歴史のある町を設定して、町を愛するまち歩き親団を作成し、境内交流を奨励します。

幸手市は日光街道沿いの宿場町として栄え、今でも特に「前村」の西側をはじめ懐かしい町並が広がっています。そこで、プロジェクトの第1回目として、幸手市幸手町の日光街道沿いを中心調査し、まち歩き地図を作成しました。

**Amano FootPath**



まち歩きの際は、履き慣れた靴を迷ひなど、歩きやすい格好でどうぞ。ショッピングやボンネットなどの荷物は荷物が自由になるのでお忘れです。また、体温や水分をとるのを忘れないようにしましょう。車などに注意し、各自責任を持ってまち歩きを楽しんで下さい。